

■山崎延吉 農政家。農民教育を推進、「日本のデンマーク」愛知県安城の礎を創り、自由な生き方で多方面に貢献した。

やまざきのぶさち

明治6年政変 1873＝ 石川県金沢で、旧藩士山崎有将の次男に生まれる。母は喜久。長男と三男は夭折。

維新による没落で、貧困の極のなかに育つ。

虚弱な気質・体質で、

琉球処分・・・1879＝ 6歳：百々女木小学校に入学するも、成績も振るわずに退学、

明治14年政変 1881＝ 8歳：
新体詩抄・・・1882＝ 9歳：改めて入学するも、イジメられっ子。父から励まされて、勉強に専念、飛び級重ねて、

秩父事件・・・1884＝11歳：石川県専門学校付属初等中学校に入学、

国民之友始・・・1887＝14歳：設立された第四高等中学校補充科に編入され、同校予科に進学、
この間、_身体を頑強にし、臆病を克服することに努めるも、ひどい訥弁はなおらず、

帝国憲法発布 1889＝16歳：

足尾鉍毒始・・・1891＝18歳：同校本科に進む際、消極的理由から_唯一人農科を志願。

日清戦争始・・・1894＝21歳：_東京帝大農科大学に入学、農芸化学科を専攻し、古在由直・横井時敬らに師事、

八幡製鉄始・・・1897＝24歳：_台湾に渡り甘蔗研究、卒論にまとめ卒業。台湾総督府就職叶わず、福島県立蚕業学校首席教諭で赴任するも、訥弁で授業に窮し、ついに講演を中断させられる屈辱に、猛練習して克服、交流楽しむまでになる。

子規句歌革新 1898＝25歳：旧金沢藩士の娘と結婚。父の莫大な借金も肩代わりすることになる。

Bushidou・・・1899＝26歳：_請われて大阪府立農学校へ転任。雑誌「新農法」に「我農生」という号で「我農漫録」連載、執筆活動始まる。

じやうく産化・・・1900＝27歳：長男が誕生。_東京出張途中、東海道線車中で愛知県の農政指導者古橋源六郎(暎児の子)の知遇を得、

田中正造直訴 1901＝28歳：*安城村に新設の愛知県立農林学校の校長に抜擢され、県会議長内藤魯一に反抗も、かえって信頼される。

地域指導者の育成めざして、{愛知県農会報}に盛んに寄稿、農村回って講演する「興村行脚」を始める。

日露戦争始・・・1904＝31歳：日露戦争が勃発すると、献金集め、戦意高揚の演説。井上友一・留岡幸助と親交始まり、

日露戦争終・・・1905＝32歳：_農事試験場長兼農事講習所長となる。異例の報徳会評議員になって、政官界との繋がりも広がる。

地方改良運動に関与するとともに、戦後の農村疲弊に、その脱却がテーマとなって行く。

韓国反日暴動 1907＝34歳：父が死去。_愛知県農会幹事となり、「篤農家懇話会」など、古橋らと本格的な活動を始める。

アヲボ創刊・・・1908＝35歳：_最初の著作で代表作となる「農村自治の研究」で農村教育の社会化を提起。

伊藤博文暗殺 1909＝36歳：_この頃には、名声が全国に広まって行く。

韓国併合・・・1910＝37歳：*初の全国篤農家懇談会を名古屋で開く。政府から派遣され、日英博覧会ついでに、欧米の農業事情視察、「

儲かる農業」など自らの考えへの確信を得る。

明治天皇没・・・1912＝39歳：

大正政変・・・1913＝40歳：「農村の経営」を講演し、「農家の経済」を出版。著作も膨大になって行く。

第一次大戦始 1914＝41歳：大正天皇即位式用の米栽培する齋田が碧海郡設置となり、その委員。古神道学者寛克彦の講演聞き感銘。

民本主義・・・1916＝43歳：_自ら農業すべきと、三重県鈴鹿に農場を開き{我農園}と命名。長男が事故死の悲劇に一層思い入れ、

_かって初対面の金原明善から言われた精神貧乏(公務に縛られ自由で無い)からの脱却の願いが強まり、

本格政党内閣 1918＝45歳：

べルサレ条約・・・1919＝46歳：三河・静岡の篤農家らによって組織された{三遠農学社}社長となり、「三遠主義」提唱。朝鮮で土地改良事業

興すため、県農会副会長らと{愛知産業}を設立、江原道で開墾事業実施。

大暴落・・・1920＝47歳：_自由になるべく、農林学校を辞すものの、懇請されて帝国農会主席幹事となり、米投売防止運動に対処。

原敬首相暗殺 1921＝48歳：朝鮮の農業事情を視察。_中央に地方農村の姿知らせるべく、読売古瀬伝蔵を誘い農政記者同志会組織し、

水平社結成・・・1922＝49歳：メンバーを愛知・岐阜視察に招き、_全国からの講演依頼に東奔西走、執筆活動もピークとなる。

関東大震災・・・1923＝50歳：_「帝国農会報」で「農村計画」提唱。震災で東京の常宿焼け重要書類焼失。帝国農会役員政友会独占に抗議、

護憲三派圧勝 1924＝51歳：_辞職。自由の身になると、福島県で農民啓蒙の講習会{全村学校}を開催し全国展開、興村行脚も激増。

治安維持法・・・1925＝52歳：石黒忠篤・柳田国男・千石興太郎らと、日本農村文化協会設立し理事となる。朝鮮各地視察。

円本時代始・・・1926＝53歳：多角的農業を提唱。_この頃には、愛知県碧海地方が「日本のデンマーク」といわれるようになる。

金融恐慌・・・1927＝54歳：_農村計画」刊行。*愛知県での陸軍特別大演習に際し、多年の功労で、天皇に単独拝謁の榮譽。

共産党事件・・・1928＝55歳：満州・朝鮮視察、張作霖爆殺事件に遭遇。_安城同窓会の懇請で、第1回普選に出馬、トップ当選するも、

世界恐慌・・・1929＝56歳：失望。{我農園}に私塾{神風義塾}設立。高松宮の碧海郡視察案内。安城同窓会の流芳山林会社社長。

海軍軍縮条約 1930＝57歳：_寺部だいが設立した農村部唯一となる安城女子専門学校を助けるべく、校長となる。天皇進講の榮譽。

満州事変・・・1931＝58歳：母が死去。台湾各地を視察。朝鮮各地で講演。

五一五事件・・・1932＝59歳：_総督宇垣一成から要請され朝鮮総督府囑託となり集中活動。還暦記念大著「我農生三十年・興村行脚」。

帝人疑獄事件 1934＝61歳：「生活」刊行。_興村行脚6000回超える。

芥川直木賞始 1935＝62歳：自伝「我農生回顧録」。

二二六事件・・・1936＝63歳：身体不調に陥り静養。_「山崎延吉全集」全6巻刊行。

日中戦争始・・・1937＝64歳：「山崎延吉全集」第7巻追加。

健保+総動員 1938＝65歳：朝鮮総督府から派遣され、北支・満蒙を視察。

第二次大戦始 1939＝66歳：「興亜国民読本」刊行。

大政翼賛会・・・1940＝67歳：NHKから「新体制と農民道」放送。

日米開戦・・・1941＝68歳：朝鮮総督府囑託辞任。

・・・・・・1942＝69歳：{神風義塾}閉鎖。身体衰えるなか、「昭和の義農」「農民魂」など著し、

{愛知県農会報}{流芳}終刊まで毎月寄稿。

敗戦・・・・・・1945＝72歳：東海毎日新聞社長、

新憲法公布・・・1946＝73歳：勅選貴族院議員。{農業日本}{農友}等に寄稿し始める。参議院立候補を固辞。東海毎日新聞社長。

新憲法施行・・・1947＝74歳：高松宮の愛知県下農業視察を案内。講演も続き、民主主義テーマのもの多い。

極東裁判決・・・1948＝75歳：_久野庄太郎からの相談を受け、愛知用水計画に参加し、人脈頼って実現に尽力、

独立回復・・・・・・1951＝78歳：最後の著作「我農生活五十年」刊行、

_生涯著書は数十冊、小冊子加え150冊を超え、興村行脚15000回超えたが、

病臥し、

自衛隊発足・・・1954＝81歳：_安城農林学校に隣接して山崎頌徳館建設となるも起工式に出れず、愛知用水の完成もみずに、没した。

岡田洋司「農本主義者山崎延吉」、平凡社百科事典、